

2021年9月29日

# News Release

## UBS アセット・マネジメント、本邦初\*の環境テーマに着目した 株式ロング・ショート公募投信を設定

『UBS 環境ロング・ショート・ファンド(為替ヘッジあり)／(為替ヘッジなし)』

UBSアセット・マネジメント株式会社(所在地:東京都千代田区、代表取締役社長:三木桂一)は、追加型投資信託「UBS環境ロング・ショート・ファンド(為替ヘッジあり)／(為替ヘッジなし)」(以下、「当ファンド」)を、本日設定いたしました。当ファンドは、主として外国投資信託への投資を介して、グローバルな観点から、主に持続可能で脱炭素化に向けたエネルギー移行経済から直接的に影響を受けるセクターや企業、そしてこれらのエネルギー移行経済に積極的に貢献するセクターや企業の株式を対象として、ロングおよびショート両面のアルファを獲得することにより、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。販売会社は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社です。

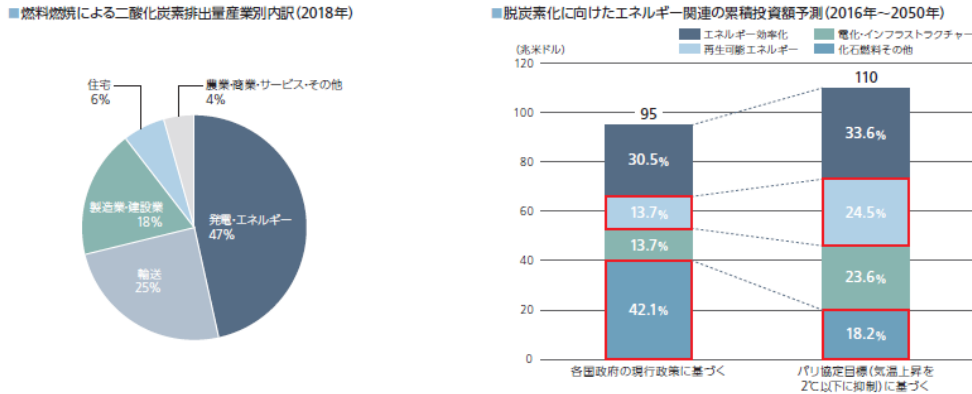
当ファンドは、注目を集める環境や脱炭素といったテーマに対して、オルタナティブ運用戦略に強みを持つ UBS アセット・マネジメントが、ヘッジファンド運用手法の一つであるロング・ショート戦略を用いて設定・運用を行う、本邦初の公募投資信託です。当社グループでは 2020 年 6 月に、環境に対する関心の高い欧米の富裕層投資家向けに類似ファンドの設定・運用を開始しました。当該類似ファンドはご好評いただき、2021 年 8 月 1 日現在約 860 億円に当該戦略残高が成長しています。

環境、特に二酸化炭素排出削減が世界経済・産業に共通した課題となる中、環境問題への取り組みやエネルギー移行経済への変化は急速に進展しています。これまで一部の政治的な課題として捉えられていた環境への取り組みは、国際的な枠組みに加えて企業、さらには金融市場にまで拡大しています。企業行動やその投資金額は、規模のみならず内訳にも大きな変化が見られ、こうした企業の取り組みに対しては株式市場参加者から以前にも増して厳しい目が向けられています。環境や脱炭素化、ESG をテーマに据えた株式ファンドが大きく注目を集める中、当戦略ではこうした市場動向を受けてロング(買建て)だけでなく、ショート(売建て)も活用することで、注目度の高い環境という投資テーマの中で、優勝劣敗を見極め、売りと買いの双方から収益機会を獲得することを目指します。

### 【ファンドの特徴】

- (1) 環境に着目したロング・ショート戦略によるトータル・リターンへの追求  
当ファンドは「エネルギー移行経済」に注目した銘柄選択により、ロング・ショート双方からのリターンの獲得を目指します。「エネルギー移行経済」とは、当ファンドの運用チームを擁する UBS オコーナーによって提唱された、グローバル規模でのサステナブルかつ脱炭素経済への移行にかかる経済活動を総称したものです。

(図)「エネルギー移行経済」に伴う企業行動の変化による豊富な投資機会



出所：UBSオコーナー、IRENA(2019)Global Energy Transformation, A Roadmap to 2050(2019 edition)、IEA

「エネルギー効率化」には、最終用途部門(産業、建物、輸送)で展開されているエネルギー効率対策と、建物の改修や構造変化に必要な投資(輸送におけるモーダルシフトを除く)が含まれます。「再生可能エネルギー」には、再生可能エネルギー技術の導入や発電、直接的な最終利用用途(例:太陽熱、地熱)が含まれます。「電化・インフラストラクチャー」には送電網への投資、エネルギーの柔軟性、熱利用が含まれます。「化石燃料その他」には原子力、炭素回収・貯留(CCS)が含まれます。上記は2015年時点の予測です。

(2) いかなる市場環境においてもリターンの獲得を目指すヘッジファンド

当ファンドが採用するロング・ショート戦略は、ヘッジファンド戦略の中でも買建て(ロング)と売建て(ショート)を組み合わせることで運用することにより、中長期的に安定的な収益の獲得を目指す運用手法です。さらに当ファンドでは対象セクターの株価の変動性等に応じて、短期及び中長期トレードを組み合わせたダイナミックなトレーディングにより収益機会の最大化を図ります。

(3) 経験豊富な運用チームを有する UBS オコーナー

40年以上の歴史を有するUBSアセット・マネジメント・グループ傘下の一員である老舗ヘッジファンド運用会社で、複数の運用戦略を世界の富裕層や機関投資家に展開するUBSオコーナーが、経験と深い洞察力を活かして運用を行います。統括ポートフォリオ・マネジャーのケン・ジェレンは資産運用のみならず、資源関連会社の取締役を務めた他、数々のエネルギー関連の国際会議にパネリストとして招聘されるなど、エネルギー政策分析の専門家としても評価を受けています。当該運用チームの大きな特徴として、サステナビリティ・ヘッドを置くことで、独自スコアリング・モデルを活用した定量的な分析に加えて、法制度や国際的な枠組みといった定性的な観点から複合的に企業評価を行うことが挙げられます。

当ファンドの設定を通じて、弊社では環境や脱炭素化といった投資テーマにご関心をお持ちの皆さまの問題意識にお応えするだけでなく、伝統的資産に加えて、ヘッジファンドというさらなる資産運用の選択肢を個人投資家の皆さまにご提供する機会になると考えています。

UBSアセット・マネジメントでは刻一刻と変化する市場環境を迅速に捉え、資産運用ソリューションの提供および質の高い商品開発を通じて投資家の皆様の中長期的な資産形成に貢献できるよう、邁進してまいります。

\* 2021年9月24日時点、UBSアセット・マネジメント調べ

## UBS アセット・マネジメントについて

UBS アセット・マネジメントは、UBS グループの資産運用部門として、世界 23 の国・地域において事業を展開するグローバルな資産運用会社です。個人投資家および機関投資家、ウェルス・マネジメントの顧客に対し、主要な伝統的資産クラスからオルタナティブ資産クラスまで幅広い資産クラスにおける深い専門知識を踏まえて、資産運用ソリューションや関連サービスをご提供しています。2021 年 6 月末現在の運用資産は約 130 兆円にのぼり、欧州最大規模の資産運用会社であり、スイス最大の投資信託マネージャー、世界第 2 位のファンド・オブ・ヘッジファンド・マネージャー、また世界屈指の実物資産の投資マネージャーでもあり、資産運用業界を率いる運用会社の一つです。

### 【投資リスク】

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動きによる影響(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を受けますが、これら運用による損益はすべて投資者の皆様にご帰属します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドにかかる主なリスクは、■当ファンドのロング・ショート戦略にかかるリスク、■株式の価格変動リスク、■カントリー・リスク、■為替変動リスク、■解約によるファンドの資金流出に伴うリスクおよび流動性リスク、などがあります。

### 【お申込みメモ】

詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

< 信託期間 >	無期限(2021年9月29日設定)
< 購入価額 >	当初申込期間: 1口当たり1円 継続申込期間: 毎月の特定期日の翌々営業日の基準価額 (基準価額は1万口当たりで表示、当初元本1口=1円)
< 換金価額 >	毎月の特定期日の翌々営業日の基準価額
< 申込締切時間 >	毎月の特定期日※ <sup>1</sup> に購入申込を受付けるものとします。 締切時間は、原則として特定期日の5海外営業日前※ <sup>2</sup> までとし、当月の特定期日に係る申込については、当月の第1営業日から申込期限の日までの各営業日に行うものとします。 当月の指定された当該期間における各営業日の午後3時までに購入申込が行われ、かつ当該申込に係る所定の事務手続きが完了したものを当月の申込分とします。 ※ <sup>1</sup> 特定期日は、主要投資対象である指定外国投資信託における各月の最終営業日とします。なお、指定外国投資信託の営業日はロンドン証券取引所、東京証券取引所、ニューヨーク証券取引所およびロンドンの銀行、ニューヨークの銀行、ダブリンの銀行、日本の銀行、ケイマンの銀行が休業日でない日とします。 ※ <sup>2</sup> 海外営業日は、指定外国投資信託における営業日ベースとします。
< 換金制限 >	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。 なお、指定外国投資信託における解約制限により、当ファンドの換金申込の一部もしくは全部が行えない、または換金申込の取消などの影響を受ける可能性があります。
< 購入・換金不可日 >	当ファンドは毎月の特定期日にかかる申込期間において、購入・換金の申込を行うことができます。当該申込期間以外の日購入・換金の申込を行うことはできません。
< 決算日 >	原則として毎年2月2日および8月2日(休業日の場合は翌営業日) 第1期決算日は、2022年2月2日とします。
< 収益分配 >	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。(再投資可能)

### 【ファンドの費用】

詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当ファンドの購入時や保有期間中には以下の費用がかかります。

■ 投資者が直接的に負担する費用

<購入時手数料> 特定日の翌々営業日の基準価額(当初申込期間においては1口当たり1円)に、3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が定める率を乗じて得た額を、販売会社が独自に定める方法により支払うものとします。

<信託財産留保額>ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

<運用管理費用(信託報酬)>

当ファンド

日々の純資産総額に年率0.847%(税抜年率0.77%)を乗じて得た額とします。

※ 運用管理費用(信託報酬)は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。

なお、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。

投資対象とする

ファンドの純資産総額に対して年率1.10%程度+成功報酬(注)

投資信託証券

(委託会社が試算した概算値)

(注) 月末最終営業日時点の1口当たり純資産価格がハイ・ウォーター・マーク(過去の月末最終営業日時点での純資産価格の最高値)を上回った場合、超過部分の20%が成功報酬としてかかります。

※ 当ファンドの委託会社は、投資先ファンドの関係法人(UBSグループの関係会社)との契約に基づき、当ファンドに関連して、当該関係法人が当該投資先ファンドにおいて受取った報酬の一部を受領する場合があります。

実質的な負担額

ファンドの純資産総額に対して年率1.947%程度+成功報酬(注)

(注) 成功報酬は運用状況によって変動しますので、事前に金額を表示することはできません。

<その他の費用・手数料>

● 諸費用(日々の純資産総額に対して上限年率0.1%)として、監査費用・印刷費用等が、日々計上され、原則毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。

● 実費として、売買委託手数料・保管費用等が、原則発生の都度ファンドから支払われます。

※ 投資対象となる投資信託証券において、実費としての諸費用がかかります。

※ 信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。

※ 投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。

本資料は、UBS アセット・マネジメント株式会社によって作成されたお客様ならびに報道機関の皆様に向けた資料です。本資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。購入のお申込にあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。

商 号: UBS アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第412号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会

©UBS 2021. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。